森林レンジャーがゆく（118）

五日市のツバメ街道

五日市街道の商店街の坂道を上っていく初夏の朝。この時季、春に渡ってきたツバメの仲間は子育てで忙しくなっています。「チュルチリ、チュルチリ」と鳴きながら、人々や車の間を猛スピードですり抜けて飛ぶ姿は美しく、たくましく見えます。実は、車にぶつかったり、ひかれたりする事が時々あります。しかし、天敵が入りにくい環境だからか、このような街並みはツバメの好みであるようで、たくさんのツバメが営巣します。あちらこちらの雨宿りできるはみ出た屋根などの構造の下によく巣が造られ、多くの場合は目線ギリギリの高さで雛の成長を確認する事ができるくらい身近な存在です。

梅雨入りの時季は、巣立ちしたツバメや、まだ生まれたての雛など、様々な成長の段階のツバメがいます。時には、家などに巣を造られる事は困るからか、巣が壊されることがあります。カラスの攻撃や、何かのいたずらによって、子育てが失敗に終わることも少なくありません。また、巣があった家などが新築に建て替えられるなどの開発により、ツバメが飛来しなくなることが多く、色々な要因の積み重ねで、ツバメが少しずつ減少しているのはこの時代の流れのようです。

五日市のツバメと言えば、普通のツバメ以外にも、コンクリートの建物や橋などで集団営巣するイワツバメが生息し、両種が共存します。カラスやタカなどの天敵を集団で追い払おうとする場面もしばしば見られます。武蔵五日市駅前の広場で、数多くのツバメの仲間が飛び回るのは印象的ですが、昨年から駅高架下の駐輪場などで糞の被害防止と思われる理由で、たくさんの巣があった天井にツバメたちが侵入できないように網が張られてしまいました。駅の先の高架下の一部のみで通常通りに営巣し続けていますが、以前ほどのツバメの数は見られません。

ツバメたちはやはり、人間をある程度恐れながら、人の目が届くところで外敵から安心して共に生きていたいように見受けられるのは私の感想です。同時に、人間がよく語る「自然との共存」は意外と難しく、思い通りに行かないことが多いということがよく伝わる関係性であると思います。

今回は森林から離れながら、森林に囲まれた町の生き物の話でした。（パブロ）

五日市街道の美しいツバメ、今年も頑張っています。